

令和3年度 第2回地域における大学振興・若者雇用創出事業評価委員会
議事要旨

日時：令和3年12月3日（金）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎4号館12F 1214特別大会議室

1. 議事

(1) 地方公共団体A本申請の評価について

- ・地方公共団体Aの申請内容に対する書面評価について、委員による意見交換を行った。委員の主な意見は次のとおり。
- ・大学の取り組み姿勢を聞くことが大事だと考える。この分野での先進事例に匹敵するような話になり得るのかが重要ではないか。
- ・数十年後に地域を支える人たちをどうこのプロジェクトに組み込んでいくのか、新しいアイデアを全体にどう展開していくか、人材育成のプランは聞きたい。
- ・産業化・事業化といったところに人材育成の軸を置く必要があるのではないか。
- ・大学は、当該地域にとどまることなく、当該産業のDXという方向に踏み出そうしている。
- ・カーボンニュートラルを完全達成するのか、ある程度の排出はあるのか、面接評価で確認したほうが良いと考える。
- ・今の首長が変わったとしても実現できる予算計画なのかというのも気になる。
- ・今回のテーマは世界でも先行して行われているため、プラス α を加えて何でダントツを目指せるのかがポイントである。
- ・当該産業で突出したものができる可能性がある大学であり、その経済効果も大きいと考える。その分野で、研究拠点としての構想があるのかを確認したい。

以上の議論を踏まえ、現地評価に進むこととなった。

(2) サイトビジットの結果について

- ・既支援実施自治体2件に対するオンラインサイトビジットの概要について事務局より説明し、委員による意見交換を行った。委員の主なコメントは次のとおり。

●既支援実施自治体B

- ・テーマにおける中小企業の問題解決の成功体験知を持つ人が多くいるという定評を作るのが、大学のブランディングには良い。そのために、企業には学生チームのメンタリングを行っていただきたい。
- ・挑戦しているテーマはハードコアであり、これからいろんな人がすごい勢いで投資をして、研究開発が進んでいく。

- ・産学連携を徹底的にやって、これに関わる学生たちが、現場やいろんな問題に対して適応し、この分野ならこの大学という定評を作ることが一番だと考える。

●既支援実施自治体C

- ・事業を始めた時と比較してテーマが地域経済を活性化する時間軸が長くなった。せっかくなので、他の分野でも使えないか聞きたい。
- ・事業責任者の存在がはっきりしてきたことは安心材料であると考ええる。

(3) 本事業の運用改善の方針に関する議論

- ・令和4年度以降の事業運営の改善方針や「展開枠」の考え方について、委員による意見交換を行った。委員の主な意見は次のとおり。
- ・地方で人を育てるために、特に地方大学は頑張って改革をすべきだと考える。
- ・地域が儲かるかどうかという前に、他の地域に影響を与えられるかも重要だと考える。
- ・展開枠として加速・強化・拡大という定義づけが整理されて分かりやすくなった。
- ・5年経った時点での競合技術などの動向や市場ニーズを確認したうえで、さらに支援を続けるべきかどうかという視点が非常に重要になるのではないかと考える。
- ・グローバルな競争環境を見た時、事業によって異なるが、最初の3年で勝負できるが重要な事業もあり、その辺りの見極めが時間軸を決めるのではないかと考える。
- ・産業との関連性や地域の経済振興などとの関連で、地域の私立大学などやる気のあるところが支援されることで、地方国立大学に刺激になればと考える。
- ・地方の国公立大学をまとめたようなところで実践的な勉強をすることで、地域で人材の環流が起こる。そういう基盤が大学を中心に起こっていくことが目的だと考える。
- ・私立大学といえど地方になればなるほど教育に重点が置かれる。研究中心の評価基準だと、十分評価できないという点が出てくるのではないかと考える。
- ・全面的に展開させて、テーマを絞るといったやり方もあると考える。選びこんで本気度の高いところにしっかり短期的に投資をして、展開を読み切るのはあり得る。
- ・展開枠は、一般化した議論は難しい。社会にとって非常に役立ちそうだが自走が難しい取組について、この交付金を活用すべきなのかも含め、具体例で議論したい。

以上